

土佐打刃物

歴史のある土佐打刃物は、国指定の伝統工芸品です。香美市土佐山田町は土佐打刃物の主要産地であり、市内には、現在も約60軒の鍛冶屋があります。

自由鍛造

土佐打刃物は、長年全国各地から形状や重さの違う刃物の注文を多く受けていたため、原寸と形を書いた注文書だけで製造ができるのが特長です。なんでも造れるので『土佐の自由鍛造』と呼ばれています。鍛造の基本作業を製品の使用目的・用途などに応じて組み合わせ、鍛錬・成形を行います。

土佐打刃物の起源

日本書紀の時代より、土佐国と呼ばれていた高知県は、良木に恵まれ、山林伐採に必要な打刃物が古くから造られました。

鎌倉時代後期、徳治元年（1306）に大和国（奈良県）より土佐国へ移り住んだ刀鍛冶師・五郎左衛門吉光派が室町末期まで繁栄し、戦国の乱世で武器刀剣等の需要に応じていました。

彼ら刀鍛冶の技術は、農・山林用の打刃物にも影響を与え、多くの鍛冶屋が土佐国内に点在していました。

1590年に土佐一国を総地検した長宗我部地帳に、399軒の鍛冶屋がいたと記されています。

土佐打刃物の本格的な隆盛は、江戸時代初期に始まり、土佐藩の家老職であった野中兼山の農・山林収益策により、農林業用打刃物の需要が拡大し、土佐打刃物の生産量・品質が格段に向上したといわれます。多少の機械化は取り入れたものの、江戸時代の技術と伝統は、現在も受け継がれています。

土佐鎌・鋸の起源

土佐鎌の源流は、安土桃山時代（1573〜1603）までさかのぼることができ、南国市久礼田の野口派と土佐山田町の小笠原派が腕を競い、品質の優れた土佐鎌が生まれたといわれています。

剃刀鍛冶から発展していった兵庫県の播州鎌が片刃であるのに対し、土佐鎌が両刃であることからみて、土佐鎌は刀剣鍛冶を源流にしていたと思われる。

一方、土佐鋸は、木材の集散地であった土佐山田町片地地区を中心に発展してきました。この地で鋸を造る技術が導入されたのは文化年間（1804〜1818）といわれ、安芸郡の鋸造り名工の元で修行した者が、片地に製法を移したといわれています。

伝統ある自由鍛造を守る

私は山林用刃物を造っています。全ての形を身につけるまで苦勞しました。昔ながらのやり方で土佐打刃物の伝統である自由鍛造を守っていきます。龍河洞の駐車場に鍛造所を構えています。見学にきてください。

伝統工芸士
土佐の匠
かみむら よしお
上村 芳雄さん
土佐山田町神母ノ木



土佐の匠が鍛えあげた 伝統の切れ味

刃物製品を通じ、高知を知ってほしい

経済産業大臣賞受賞『くじらナイフ』の販売から18年。今年5月に目の部分に宝石サンゴを使用した『あかめナイフ』を完成させました。この商品が、高知を知ってほしいきっかけになればと願っています。

伝統工芸士
土佐の匠
やました さとし
山下 哲さん
土佐山田町新改

